

# 光の文様を描く 三角形の立体和紙光壁

ダイニング 茶々 Ryu-rei

設計：辻村久信デザイン事務所+  
ムーンバランス 辻村久信 吉村 繁  
施工：ジェービーディー 吉田義宣  
松元克洋



店内奥よりテーブル席を見通す。柔らかな光を放つ立体和紙の光壁が空間を繋いでいる

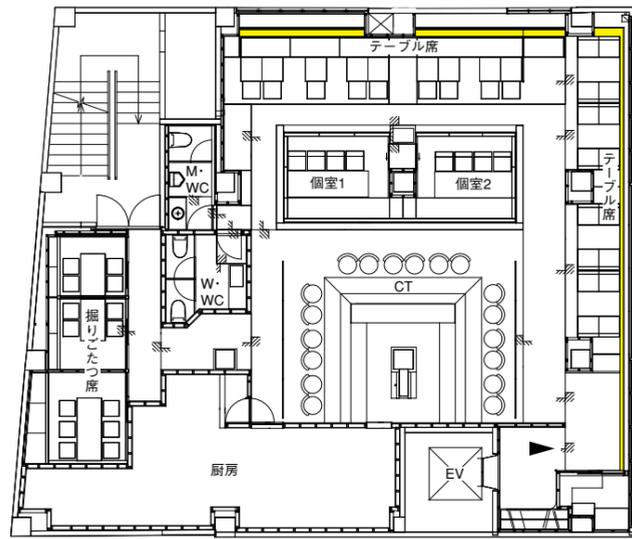
## 空間を構成するエレメント

光源を透過するフィルターとしての手漉きの和紙は、光を拡散しライトイメージを感じさせないことや光源そのものを暖かく柔らかくすることで他に類を見ない素材であるように思う。和紙を漉き込む状態(水の状態)で立体に成形することによって、本来は平面である和紙に三次元の形状を与えることができる。この技術は日本古来の紙の製造工程と特殊な金型の組み合わせ、そして繊細な日本人の職人の技を持って可能となった。

光源を内蔵したこの三角形の立方体の和紙は、そのものだけでも照明器具としてシーリングライトやウォールライトとして使用することもできるが、この三角形の組み合わせによってさまざまなグラフィカルな光壁や光天井として空間そのものを構成する光のエレメントとして利用することもできる。

「茶々 Ryu-rei」では、テーブル席とボックス席を繋ぐ光壁としてこの空間を、また中央の黒ガラスの茶室の壁面へのリフレクション効果を狙って空間の光の文様となるよう計画している。

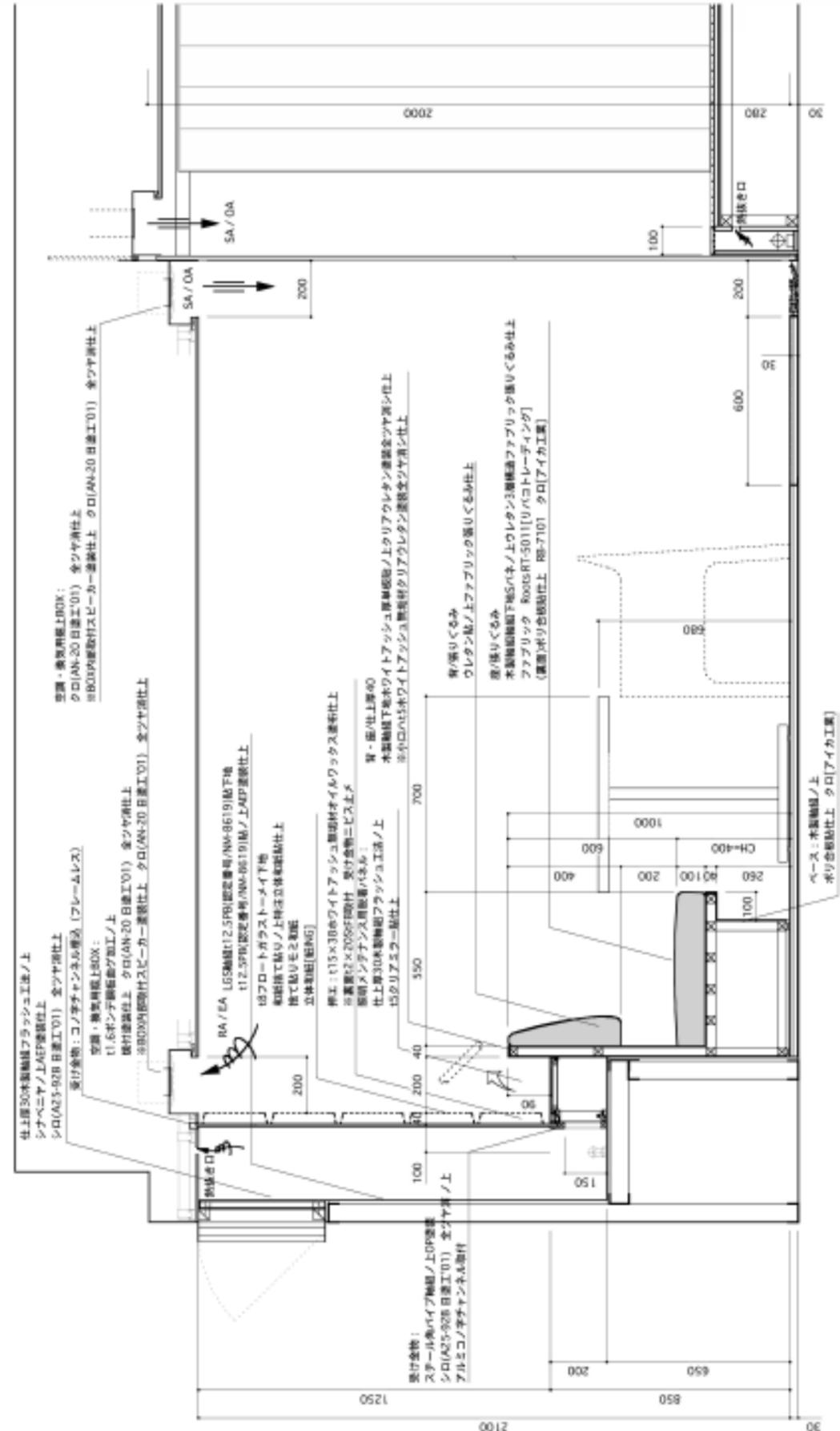
〈辻村久信〉



茶々 Ryu-rei ● PLAN 1 : 200

工事種別：内装のみ 全面改装  
床面積：221.89㎡ (うち厨房42.49㎡)  
客席数：82席

工期：2006年2月6日～3月21日  
撮影：ナカサ&パートナーズ (06年8月号)



茶々Ryu-rei●断面詳細図 1 : 20